

かわ

2017.1.1

Vol.232 Contents

会長年頭のご挨拶 P1

河川愛護絵画コンクール

入賞者紹介 P2 ~ P3

河川愛護絵画コンクール表彰式 P4

わかまちの川◎第32回行橋市 P5 ~ P6

河川事業現地研修会報告 P7 ~ P8

ふくおかの身近な川とさかなを知ろう!! P9 ~ 10

No.37 日本的重要湿地：福津市編

ホームページリニューアル／協会からのお知らせ



年頭のご挨拶



新年あけまして
おめでとうございます

福岡県河川協会

会長 ^{こう}香 ^{はら}原 ^{かつ}勝 ^じ司

平成29年の新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、8月に「リオ五輪」が開催され、日本は過去最多の41個のメダルを獲得しました。特に男子400mリレーでは、アジア新記録で銀メダルを獲得するという予想を超える大活躍でした。100m9秒台が1人もいないチームは、そのチームワークで世界に衝撃を与えました。3年後の東京五輪でも、日本の更なる活躍が大いに期待されるところであります。

一方で、昨年も日本各地で大きな災害が発生しました。

4月には熊本地震が発生し、甚大な被害が発生しました。8月には台風が岩手県や北海道に上陸し、東北地方から北海道地方は大雨となりました。台風が東北地方太平洋側に上陸したのは気象庁が1951年に統計を開始して以来初めてのことだそうです。また、熊本地震のように震度7が連発するのも観測史上初めてだそうです。

このような、「予想を超える」災害はどこで発生してもおかしくない状況になっております。

福岡県においても、平成24年の九州北部豪雨による被害、平成26年には筑紫野市を中心とした局地的大雨による浸水被害が発生しております。こういった大規模自然災害に対しては、日頃から災害に対して備えることに加え、災害が発生したときは適切な避難行動が必要となります。

このため、県では河川改修事業と併せて、避難に役立つ情報の提供や防災意識の啓発も実施されております。

福岡県河川協会といたしましても、県と連携しながら災害復旧実務講習会や河川事業現地研修会の開催、機関誌「かわ」やホームページを活用した河川関係情報の提供、また小学生を対象とした河川愛護絵画コンクールの実施等の啓発活動を行っているところであります。

今後とも、災害に強い福岡県づくりや豊かな河川環境を次世代に残していくための活動に貢献できるよう、関係機関とチームワークを図りながら努力して参りたいと考えております。

本年が、皆様にとりましてすばらしい年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

河川愛護絵画コンクール

入賞者紹介

今年度も「河川愛護絵画コンクール」では、県内68の小学校から654点の応募があり、その中から90点を入選作品としました。今回は特選、一等の絵画と、入賞者の子供たちを紹介します。

特選
〈低学年〉



川の生き物たちと楽しく泳いだり、遊んだりしたことを表したかったという児童の思いが伝わってくる作品です。光を発する蛍も複数描かれており、いつまでもきれいな川であってほしいという思いも絵に込められています。人物と生き物の配置もよく工夫できています。

Nice!

みやこ町立城井小学校 1年
谷口 慶壮さん

特選
〈中学年〉



釣針にかかった魚が水面上に姿を見せたときの、児童の喜び、きれいな川で育った魚の美しさや活きのよさへの感動が伝わってくる作品です。背景のグラデーションや大胆な構図が効果的です。描画材等の特徴を生かした表し方も見られ、独自の世界観を醸し出しています。

Good!

志免町立志免西小学校 4年
木下 凱翔さん

特選
〈高学年〉



カヤックに乗る人物が、川の流れを克服しながらうまく進ませようと集中する感じが伝わってきます。表したいことを児童独自の川とのかかわりから発想して完成させた力作です。背景の緑の色味が豊かで、筆のタッチの変化や白色の効果的な活用など工夫が随所に見られます。

Great!

菟田町立白川小学校 6年
村上 豪さん

〔作品講評：福岡県教育庁教育振興部義務教育課 中村 氏〕

1等



みやこ町立伊良原小学校 1年
村上 結子さん



苅田町立白川小学校 3年
長谷川 拓未さん



行橋市立稗田小学校 5年
泉 海斗さん



みやこ町立城井小学校 2年
河野 陽太さん



宇美町立原田小学校 4年
平野 喬久さん



苅田町立片島小学校 6年
野田 章馬さん

2等

福津市立上西郷小学校	1年	今橋 遼馬
みやこ町立城井小学校		棚田 悠楽
みやま市立下庄小学校	2年	高野 茉莉
川崎町立真崎小学校		土井 絃嗣
みやこ町立久保小学校	3年	武田 雪都
福岡市立福重小学校		辻 知世
行橋市立榑市小学校	4年	吉元 歩乃果
みやま市立下庄小学校		中山 琴葉
柳川市立両開小学校	5年	江崎 日南
みやま市立下庄小学校		青木 純令
北九州市立朽網小学校	6年	平田 彩乃
苅田町立白川小学校		松蔭 孝一郎

福津市立上西郷小学校		波田 鈴太郎
須恵町立須恵第三小学校	5年	中田 麗夢
苅田町立与原小学校		天野 溪
添田町立添田小学校		久保田 美優
行橋市立今元小学校	6年	川邊 伊凜
苅田町立白川小学校		加治 遥香

苅田町立白川小学校		濱口 咲希
行橋市立行橋小学校	3年	小島 優奈
宇美町立原田小学校		橋本 侑綺乃
みやま市立南小学校		河野 紗南
苅田町立片島小学校		松本 理志
福津市立福岡小学校		片野坂 はるか
みやこ町立誠郷小学校	4年	田中 凜音
行橋市立稗田小学校		飛野 梨奈
柳川市立柳河小学校		志牟田 姫花
柳川市立柳河小学校		江口 航央
福岡市立福重小学校		中村 莉奈
宇美町立原田小学校		筏 夏鈴
苅田町立苅田小学校		加藤 晃輔
みやこ町立節丸小学校		浅野 美優
みやこ町立諫山小学校	5年	辻塚 妃奈乃
苅田町立片島小学校		定村 美希
苅田町立与原小学校		織田 心羽
苅田町立苅田小学校		松浦 聖樹
苅田町立片島小学校		杉谷 拓亮
福津市立上西郷小学校		吉岡 惇希
みやま市立大江小学校		今泉 香乃
苅田町立白川小学校		本嶋 小晴
苅田町立与原小学校		木山 斗那
みやこ町立諫山小学校		兎中 はな
苅田町立片島小学校	6年	根角 姫華
みやこ町立諫山小学校		水本 帆香
みやこ町立諫山小学校		生永 泰規
みやこ町立豊津小学校		瀬戸 一輝
苅田町立白川小学校		中原 楓希
苅田町立与原小学校		江藤 和花

佳作

みやま市立下庄小学校		江崎 稀乃香
須恵町立須恵第三小学校		岩崎 勇利
苅田町立白川小学校		岡村 結衣
苅田町立苅田小学校	1年	高島 光晴
みやこ町立城井小学校		石橋 遼大
久留米市立烏飼小学校		江里口 心羽
宇美町立原田小学校		内迫 新志
北九州市立朽網小学校		深堀 心夢
朝倉市立朝倉東小学校		蘇木 祐二
宇美町立原田小学校		平野 晴己
福津市立上西郷小学校		運尾 涉
須恵町立須恵第三小学校		中田 侑龍
行橋市立行橋小学校	2年	柳 翔互
柳川市立柳河小学校		井上 太貴
川崎町立真崎小学校		重藤 未羽
直方市立新入小学校		山島 健浩
川崎町立真崎小学校		上條 遥太
柳川市立二ッ河小学校		宮地 万葉
行橋市立稗田小学校	3年	上田 大稀
行橋市立行橋小学校		上村 響
直方市立新入小学校		小室 まや

3等

みやま市立上庄小学校		井手 花鈴
行橋市立今元小学校	1年	西濱 虎太郎
行橋市立稗田小学校		桑木野 弘騎
苅田町立苅田小学校		入江 恢友
苅田町立苅田小学校	2年	石川 凜果
福岡市立松島小学校		島中 聡子
みやこ町立久保小学校		村上 敦哉
柳川市立二ッ河小学校	3年	高口 雲龍
福岡市立青葉小学校		後藤 祐真
行橋市立稗田小学校		竹下 斗己
苅田町立南原小学校	4年	山口 仁美
福岡市立松島小学校		佐藤 莉子

平成29年度も河川愛護絵画コンクールを行う予定です。学校を通じて募集しますので、みなさまぜひご参加ください。

スケジュール(予定)

案内 / 平成29年5月頃、作成期間 / 案内～平成29年8月末、応募締切 / 平成29年9月初め
入賞者決定 / 平成29年10月頃、表彰 / 平成29年12月頃

平成28年度

河川愛護絵画コンクール 表彰式



平成28年度福岡県河川愛護絵画コンクール入賞者の表彰式が、「古賀市リーパスプラザこが交流館」で行われました。

特選の方1名、一等の方4名が出席され、受賞者には、表彰状と盾が福岡県県土整備部河川課鴨打課長から授与されました。

■日時 平成28年12月3日(土)12:50～

■場所 古賀市リーパスプラザこが交流館(古賀市中央2-13-1)
第13回「ふくおか水もり自慢! in 古賀」開催会場

特選
(小学生)



志免町立志免西小学校4年
木下 凱翔さん

1等



みやこ町立伊良原小学校1年
村上 結子さん

1等



荏田町立白川小学校3年
長谷川 拓未さん

1等



宇美町立原田小学校4年
平野 喬久さん

1等



荏田町立片島小学校6年
野田 章馬さん

おめでとう
ございます



郷土ふるさと 福岡の河川を知る

わがまちの かわ

第32回

行橋市

福岡県



行橋市街と今川

YUKUHASHI



■ 行橋市の概要と河川

魅力がいっぱい 人が集まる パワフル ゆくはし

行橋市は、福岡県の北東部に位置し、今川をはじめとする河川や周防灘の海、平尾台(カルスト台地)の山など、川・海・山の多様で豊かな自然に囲まれています。

市内には2級河川の今川、祓川、長峽川が流れ、市街地周辺の田園や郊外の果樹園など、水と緑に恵まれたまちです。

主要交通網として、東九州自動車道、国道10号、201号、496号が通り、JR行橋駅が日豊本線と平成筑豊鉄道の相互乗り入れ駅となっているなど、北九州・大分・筑豊・福岡を結ぶ交通の結節機能を担っています。

京築地域の中心地として、また、近年自動車産業を中心に全国でも有数の工業集積地となった九州北東部地域の中央に位置する拠点都市として、広域的な役割・位置づけが高まってきており、今後とも都市と自然が調和した住みやすいまちづくりを推進し、人口減少対策を見据えたまちづくりを進めています。



今川河畔での花火大会(夏祭り:こすもっぺ)

今川 — 桜と菜の花 —

幻想的な
夜のライトアップ♪



英彦山を源流に、市内を横断して流れる今川は、ふるさとの川として市民に親しまれています。河畔は、公園として整備され遊歩道が設けられて、つりや散歩を楽しむ人たちににぎわっています。春になると、土手を桜と菜の花が彩り、明るくはなやかな雰囲気になります。年間を通じて河畔を利用した各種のイベントが開催されており、市民の憩いの場として愛されています。

祓川 — 伊良原ダム —



祓川は、河口北側に養島海水浴場、南側に沓尾浜と長井海水浴場があり、マテガイなどの潮干狩りも楽しめます。上流部では来年度の供用開始に向けて「伊良原ダム」が間もなく完成予定で、ダム周辺の山に囲まれた静かな峡谷では川釣りや水遊びを楽しむことができ、水源の蛇淵の滝にはキャンプ場があります。

長峽川 — 川渡り神幸祭 —



5月初旬に五穀豊穡、家内安全を祈願して行われる恒富八幡神社の神事です。白装束の氏子たちに担がれた3基の神輿が神社前の長峽川へと入り、威勢のいいかけ声とともに神輿を大きく揺らす勇壮な姿に、見物客からも大きな拍手が沸きあがります。

今川河畔の各種イベント

行橋夏祭り
こすもっぺ

2500発!



京築地区を代表する夏祭りです。市内各所でイベントがあり、今川河畔には60店舗以上の出店が並び市民参加型のステージショーなど盛りだくさんのイベントが実施され多くの人でにぎわいます。花火大会では、今川河畔から2500発の打ち上げ花火と全長200メートルの仕掛け花火が会場を盛り上げ迫力満点です。

行橋～別府
100キロウォーク

別府まで
ウォーキング♪



行橋市から100キロ先の大分県別府市のゴールを目指して、4,500人を越す参加者が正八幡宮を出発。今川河畔のサイクリングロード、長井浜を歩いてゴールの別府へ向かいます。

海岸地域の各種スポーツイベント

ビーチバレー・
ビーチサッカーなど



上質な砂質のビーチが広がる長井浜では、ビーチバレーやビーチサッカーなどのスポーツイベントが毎年開催されており、ハイレベルなプレイが繰り広げられ迫力満点です。また、試合会場に隣接する砂浜では、ビーチライブ等のイベントも開催されます。

ゆくはしシーサイド
ハーフマラソン



行橋総合公園から市内の海岸線を走り、航空自衛隊築城基地を折り返し地点とするハーフマラソン大会です。コース沿線には市指定史跡(守田養洲旧居・稲童1号掩体壕)があります。また、フィニッシュ後には行橋市養鳥産の牡蠣が入った牡蠣汁がふるまわれます。(日本陸上競技連盟公認コース)

河川事業現地研修会に参加して

SHIGAKEN

福岡県県土整備部河川課 主任技師 藤井 陽子

日本最大の湖、琵琶湖がある滋賀県に視察に行きました。滋賀県の川は、急峻で、水源の山地からの土砂流出が多く、天井川が日本一多いという特徴があります。私は学生時代に滋賀県に住んでおり、川の下を通る道路を利用していました。最初は川と気づかず、地図を見て川の下を通っていたんだと驚いた記憶があります。

最初の視察地である鴨川は、平成25年台風18号で河川堤防が破堤し、浸水被害が発生した箇所でした。全国で初めて特別警報が発表され、滋賀県内の雨量観測点において観測史上最大雨量を記録したとのことでした。鴨川では氾濫注意水位を1m以上超える水位を観測しました。下流は改修済みであり、その上流の河川堤防が破堤しました。また、出水により河床が洗掘され護岸の施設被害も多く発生したとのことでした。鴨川は河川災害復旧助成事業により改修が行われており、今年度で完了予定です。福岡県においても、平成24年に発生した九州北部豪雨により被災した矢部川流域で河川災害復旧助成事業を行っておりますが、鴨川と河川特性が異なっており、護岸、河床等の復旧内容も異なっていることが印象的でした。鴨川では、天端コンクリートの打ち方を工夫し、覆土をしてコンクリートの面が見えないように景観に配慮した施工がされていました(美しい山河を守る災害復旧基本方針4.7参照)。また、整備後の維持管理を考慮して、小口止めに計画河床高や変位が確認できるメモリを標記する工夫がされていました。災害復旧の事業であっても、ちょっとした工夫で維持管理に視点をいた整備ができることを学びました。

次に湖西から大津市内へ移動し、天井川解消と流下能力向上のため放水路整備を行っている大宮川を視察しました。天井川解消のためには現河道とは別に河道を確保する必要があるため、事業期間が長期になりますが、平成25年台風18号では整備途中でしたが、整備効果が表れ浸水被害はなかったとのことでした。

2日目は湖南エリアの現場を2箇所視察しました。1箇所目が金勝川で、天井川を切り下げる改修事業を行っているところでしたが、平成25年台風18号で未改修区間において河川堤防の破堤が発生しました。2箇所目は新守山川で、流下能力向上のため旧河道の横に新河道の整備を行っていました。川のそばに公民館や小学校があり、河川に関する教育やボランティア活動が積極的に行われており、地域と一体となった河川愛護活動により、川土手の桜並木がきれいに整備されていました。最後に琵琶湖の歴史や役割を学べる琵琶湖博物館に行きました。展示方法が面白く、五感で琵琶湖を知ることができる博物館でした。

最後に、業務のお忙しい中、視察の案内や説明をしていただきました滋賀県庁の皆様、福岡県河川協会の皆様に感謝申し上げます。

BIWAKO



【鴨川(小口止め):高島市】



【新守山川:守山市】



河川事業現地研修会に参加して

筑紫野市建設部河川課 係長 松永 崇臣

滋賀県での河川事業現地研修会に参加しましたのでご報告いたします。

滋賀県は、県境が分水嶺となっている山地に囲まれており、降った雨のほとんどが中央部に位置する日本最大の琵琶湖に注がれています。滋賀県の河川は、流路延長が短く急峻であること、河床が周辺の土地より高い位置にある「天井川」が多いことが特徴です。また、災害被害額が47都道府県で日本一少ない県だそうです。しかしながら、平成25年9月15日夜から16日早朝にかけて台風18号が近畿地方に接近し、滋賀県、京都府、福井県に全国初の大雨による特別警報が発令されました。滋賀県では、24時間で400mmを超える雨量を記録し、高島市の鴨川、栗東市の金勝川の堤防が決壊するなどの甚大な浸水被害が発生しました。現地研修では、台風で被災した災害復旧助成事業や広域河川改修事業の現場4箇所を視察しました。



【鴨川：高島市】

研修1日目、鴨川の河川災害復旧助成事業は、平成25年の台風18号により右岸堤防が決壊した箇所が分かる場所で説明を受け、被災写真と復旧現場を見比べると、当時の被害がどんなに大きなものであったかが実感できました。被災当時、鴨川の下流域は河川改修が済んでおり、未改修区間において堤防が破堤し、被災流量が現況の流下能力を遙かに超えていたため、河道拡幅による改良復旧を実施しています。復旧に当たっては、国の多自然川づくりアドバイザーの指導の下、元々の河川の法線を残しながら、一部区間の護岸勾配の傾斜を緩くし、親水性や環境に配慮した復旧をされていました。また、早期復旧に向けて出水期に関係なく工事を進めていたところ、平成26年、27年と連続で台風が上陸し、工事が終わっていた箇所が再び被災を受け苦労されたそうです。次の大宮川の総合流域防災事業は、下流域が天井川を形成しているため、破堤による壊滅的な被害を回避するために、大宮川と足洗川の2河川を統合する大宮川放水路を整備する事業を昭和48年度から着手し、平成28年度に完了するもので、現場はほぼ終わっていました。この事業は、暫定計画による整備は行っておらず、着手から完了まで将来計画で河川整備が終わるのは全国的に珍しい事業です。

研修2日目、金勝川の広域河川改修事業は、天井川を切り下げて平地河川化を行い、河積を拡大することにより治水安全度の向上を図るもので、下流側の改修済区間と上流側の現況河床には落差が生じるため、多段式の仮設落差工を設置して改修を進めていましたが、鴨川と同じく、平成25年の台風で落差工の右岸堤防が決壊しました。災害時は、先掘された河床を盛土し天井川の状態に原型復旧するのは不相当であるため、被災後の河床に応じて傾斜をつけ現川に取り付ける復旧工事をしたが、流速が早くなるため、護床ブロックの上に突型ブロックを設置し流速を低減する工夫をされていました。次の新守山川の広域河川改修事業は、現川の横に土地を切り下げて新たな河川を整備する事業で、護岸は、親水性に配慮した緩傾斜法面になっており、多自然川づくりに取り組んでいました。



【金勝川：栗東市】

2日間の研修を通して、滋賀県の河川事業は、地形や河川の特徴をよく把握し、将来の危険性を予測した上で、ハード事業だけでなくソフト事業を含めた治水事業に精力的に取り組んでいると感じました。平成25年の台風により、鴨川と金勝川の堤防が決壊したものの、破堤した箇所が未改修区間であり、改良済み区間で大きな被害がなかったのは、以前から河川事業に取り組んできた成果が表れているとともに、災害被害額が日本一少ないことにつながっていると思います。

筑紫野市では、御笠川水系の河川で頻りに浸水被害が起きており、現在、福岡県が進めています河川改修工事と九州初の地下河川の工事が着実に完了するよう支援をするとともに、浸水が起きないように効果を発揮して欲しいと願うばかりです。

最後に、他県の取り組みを直に見ることは大変勉強になり、他市町村職員の方達と意見を交換することができて有意義な研修でした。



【大宮川：大津市】



おに くら
のり 倉
徳 雄



津屋崎干潟のクロツラヘラサギ

【日本の重要湿地：福津市編】

皆さんは「重要湿地」という言葉を耳にしたことがありますか？生物多様性の観点から重要度の高い湿地を「重要湿地」と呼び、平成13年に日本の重要湿地500が、そして、平成28年にその改定版が環境省より公表されています。環境省ではその目的を「湿原・干潟等の湿地の減少や劣化に対する国民的な関心の高まり、ラムサール条約における湿地定義の広がりなどを受けて、ラムサール条約登録に向けた礎とすることや生物多様性の観点から重要な湿地を保全すること」と位置付けており、実際にいくつかの重要湿地はラムサール条約登録湿地となっています。平成13年時は有識者の提案をベースに選定されておりますが、平成28年の改定では有識者意見に加えて地方自治体からの意見などを取り入れて検討が進められたそうです。その結果、改定後の重要湿地の数は500から633か所に増えております。福岡県からは19か所が重要湿地に選ばれており、人口密集地の福岡市や北九州市から選定された場所もあります。河口域、干潟、ため池、湿原、農業用水路、海域、河川と選定された湿地は多岐にわたります。そして、私の職場のある福津市からも「津屋崎干潟および周辺農業用水路」と「古賀

市および福津市のため池群」として、2か所が選定されております。

それでは、福津市から選ばれた2か所の選定理由を見てみましょう。「津屋崎干潟および周辺農業用水路」については、ツルシギ、アカアシシギ、タカブシギ、セイタカシギの渡来地、クロツラヘラサギの重要な渡来地、カブトガニの生息地であることが、「古賀市および福津市のため池群」については、エサキアメンボ、オオマルケシゲンゴロウ、ミゾナシミズムシ、ハネビロトンボなどの生息地であることが、その選定理由として述べられています。選定基準の中での「希少種、固有種等が生育・生息している」および「特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生



カブトガニ

育・生息する」という2つの基準が該当しております。ちなみに、環境省は「一般に、絶滅危惧種の種名と位置情報が公表された場合、乱獲および過剰採取リスクが高まるため、記載内容について情報の加除・修正を行った」としており、希少生物のコレクターなどが狙うような希少種情報は削除されていることが想像されます。

さて、日本の重要湿地に選定されたことの意味について考えてみましょう。今回の改定について、環境省は「地域住民などが湿地の重要性を認識し、保全や再生の取り組みを活性化することを目指して、生物多様性の保全や自然再生などの観点から重要湿地500を改定した」と述べております。つまり、「生物多様性がとっても高い重要な湿地なので、その重要性をみんなで理解し、保全や再生に関する活動を行いましょー！」と促しているわけです。また、日本国際湿地保全連合の所長は「重要湿地は、日本におけるラムサール条約登録湿地の選定において重要な基礎資料であることを述べており、実際に2010年公表のラムサール条約湿地潜在候補地リストの選定の際に、「主に重要湿地に選定されている湿地を対象に、湿地タイプごとに陸域および海域の生物地理区を代表する湿地、希少または固有な例を含む湿地」を選んだそうです。つまり、日本の重要湿地に選ばれることが、将来的な世界基準への礎となるわけです。

私個人としては福津市から2か所が選定されている事実は大変喜ばしいこととして受け止めています。でもその一方で、個人的に危惧することもあります。福津市に住んでいる人々のうち、いったいどれくらいの人が津屋崎干潟、近隣の農業用水路、御供田のため池などが重要湿地に選定されたことを知っているだろうか？行政はその普及啓発を行おうとしているのかどうか？さらには環境行政施策に重要湿地の保全・保護を盛り込むつもりがあるのかどうかなどなど。世界遺産暫定登録で盛り上がる福津市ではありますが、世界遺産もその後の保存状況が悪ければ危機遺産リストに掲載されたり、世界遺産から抹消されたりするわけですから、重要湿地選定の意味を

正しく理解し、適切な対応を行っていかないと、本来であれば「地域の誇り」であるはずの重要湿地が、数年後に「地域の埃」になってしまい、恥ずかしい思いをするかもしれません。地域の行政がまずは第一歩目を踏み出すことを願うばかりです。今日は、環境省の意向を踏まえ、福津市内の重要湿地での生息が既に公表されているカブトガニ、クロツラヘラサギ、また、希少種ではないけれど生息する可愛いカニ（ユビアカベンケイガニ）、カッコいいカニ（アシハラガニ）の写真を掲載！



ユビアカベンケイガニ



アシハラガニ

おに くら のり お
鬼倉 徳雄 — NORIO ONIKURA —

- 九州大学大学院農学研究員・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類学会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／

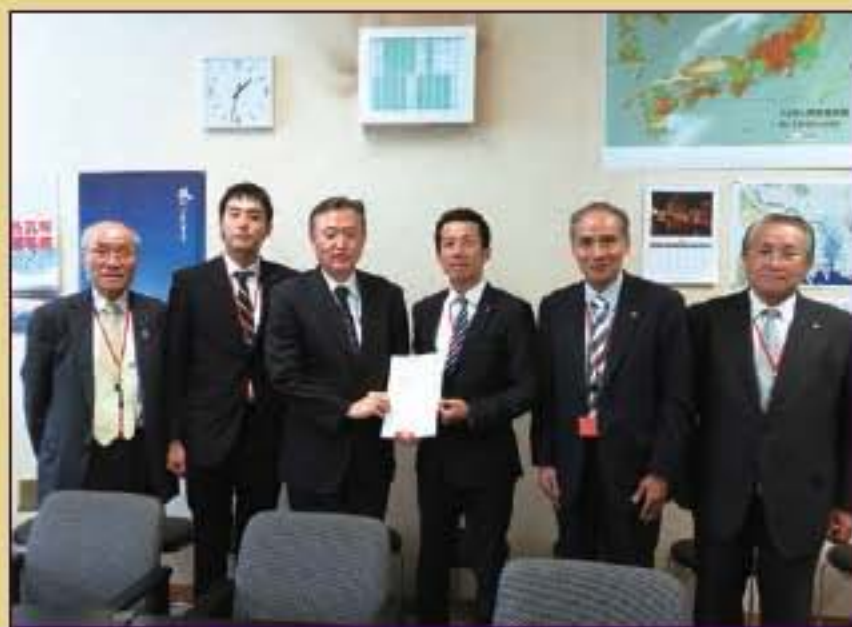
- 有明海の生きものたち
干潟・河口域の生物多様性（佐藤正典編）
- 干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさと危機
（日本魚類学会自然保護委員会編）

**河川協会のホームページを
リニューアルしました!**

河川の動画も見ることができます。(スマートフォン対応ホームページ) **QRコード**

協会からのお知らせ

福岡県河川協会の要望活動



国土交通省山田局長と香原会長

平成28年10月6日(木)、国土交通省、地元選出国議員の方々に対し、通常総会の決議に基づき河川事業に関する要望活動を行いました。

香原河川協会会長から国土交通省の山田水管理・国土保全局長に要望書が提出されました。

(写真左から)手嶋理事(川崎町長)、吉村理事(県議)、山田局長、香原会長、高木評議員(うきは市長)、佐々木監事(糸田町長)

ほかに、役員市町・参与等、計20名が参加。

**編集
後記**

13回目の「ふくおか水もり自慢」が12月3日(土)に古賀市で開催されました。当日は、会場に入りきれないほどの参加者(約200人)がありました。実行委員会委員長からは、「継続していくことが大事。もし参加者が少なくなっても継続していきたい」との話がありました。「活動発表」の内容も多様化し、小学生の活動発表も充実しておりました。詳細は次号で。(古賀)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669
企画 正光印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ <http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>